第6号
発行日：H30.6.8

純正会　地域包括ケア通信

発行：純正会地域包括ケア推進委員会事務局

平成３０年度　第２回　純正会地域包括ケア推進委員会　開催しました！

今回は、介護保険導入のチラシの活用方法と、事例検討を行いました。新たに、他法人の居宅介護支援事業所のケアマネジャーさん3名が、ゲストとして参加されました。名古屋西病院から相談員の畑野さんが参加されました。

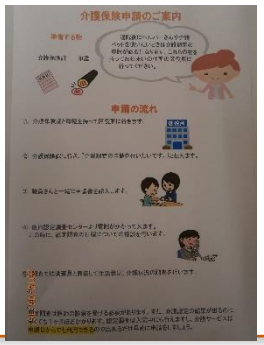
介護保険申請の手順をよりわかりやすく〃リーフレットを作成しました〃

患者さまに向けてこれまでわかりにくかった介護保険申請の手順をよりわかりやすくするために、居宅介護支援事業所の金田さんが中心になりリーフレットを作成しました。

そして、その内容が実際にどのようにして活用するといいのかを居宅介護支援事業所太陽のケアマネがMSW、利用者、利用者家族を演じてロールプレイで紹介しました。介護保険証を無くした時はどうしたらいいのか、どのような介護サービスが利用できるのか、など高齢者にもわかりやすい内容で紹介しました。演じているケアマネは一生懸命でしたが観覧している参加者からは笑いがおこり楽しい雰囲気で行いました。終了後のアンケートには「ロールプレイのおかげで理解しやすかった」「患者さん向けにどこかで活用してはどうか」など好評価でした。

居宅介護支援事業所太陽では今後も地域の皆様のためにこのようなロールプレイの実演ができる機会を作っていきたいと考えています。今回作成したリーフレットは各施設で活用していただけると嬉しいです。

↑　ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲの様子



事例検討

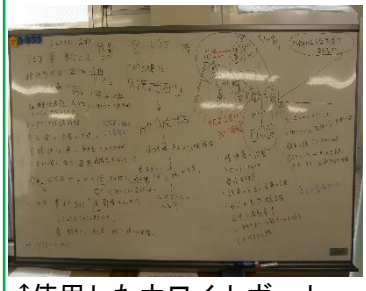
今回の事例提供者は居宅介護支援事業所太陽の金田さん。糖尿病、心不全、慢性腎不全で週3回透析を受けているAさんの事例です。Aさんは精神的に不安定で妻に対して辛くあたってしまうため妻はやむなく長女の家に避難していました。家で暮らしたいAさんと施設を考えている家族との間でケアマネとして揺れ動いていました。金田さんはAさんと妻の距離を離すことが大事だと判断し主治医に入院させてもらえるように頼みました。Aさんが受診したらそのまま入院できることになりましたが、Aさんの拒否が強く入院することができず、さらにはAさんと金田さんとの関係もギクシャクしてしまう結果になってしまいました。そこで『どうしたら以前の様にAさんが自宅で家族と共に過ごせるか』というテーマで話し合いました。

質疑応答では看護職より「精神の既往歴はあるのか」に対して「既往歴はないが以　前と性格が変わったと家族が言っている」と回答。MSWより「Aさんにとって一番信頼関係ができている人は誰か?」に対して「妻ではなく三女との信頼関係ができている」との回答。

ゲストのケアマネより「利用しているサービスは?」に対して「介護用ベッドの貸与と受診時の介護タクシーの利用のみ」との回答がありました。

参加者でケースを整理しながら出た意見は「Aさんの安心と家族の息抜きのため訪問看護を導入してはどうか」「関わる家族が多いほど意見統一は大変になるのでAさんが一番信頼している三女とコンタクトをとってはどうか」「将来施設に行くかもしれないが透析やインスリンの管理が問題になるので再度入院調整をして医療職の指導を受けた方がいい」などの助言をもらいました。

金田さんより「多くの意見をもらいありがたい。自分としては在宅でやっていってほしいが現状では難しいと思うので、皆さんの助言で頂いた新たなサービスの導入や一時入院についても主治医と相談していきたい。」と感想をもらいました。



↑使用したホワイトボート

2部会の開催！

今回の2部会は、ケアマネジャーに同行し入退院を繰り返している利用者のモニタリング風景を見てもらいました。

その後、本日の事例検討で話題となったAさんが透析をしている病院に行きました。参加者より「医療相談員はあまり他の病院に行くことがない。他の病院の様子を見ることができて新鮮だった」と感想をもらいました。

今後も二部会の充実を図っていきますので皆さんご参加ください。

次回の予定

日付	行事	場所
６月２０日　１３時半	介護支援専門員の役割	東洋病院